

千里の鳥・万博の鳥(第100回)「トモエガモ」(2021年3月)

有賀氏の写真による「千里の鳥・万博の鳥」は100回目となりました。100回を記念して出現してくれた鳥は何と「トモエガモ」、私はこれまで吹田市で見たことが無く、1羽見られるだけで嬉しい鳥なのに、10羽以上いたとのこと、素晴らしいタイミングの写真である。

トモエガモはコガモと同属で、体長40cmの小型のカモ、今年2021年1月実施した大阪府内全域の調査では、池・河川など483ヶ所を調査し4ヶ所のみで確認されている。個体数は過去最高(1980年115羽)に近い94羽となったが、四条畷市室池で65羽も記録されたことによるものである。同属コガモが2500羽も確認されているので、如何にトモエガモが稀なカモであるかわかる。

万博公園はいろんな木々が植栽されており、木の实を食べる鳥たちの餌場としては非常に良い環境であるが、ドングリを食べるカモのオシドリやトモエガモにとって、ゆっくり休める池がないため、越冬地とはならず、一時的な採餌地となっている。このトモエガモが万博公園に何日も定住したと思えないので、10羽以上の群がいた2月19日は、記念すべき日として覚えておきたい。

トモエガモ(巴鴨)の名前は、雄の顔が目を中心にして緑色・黄色、黒色の斑紋が、家紋で見る巴紋形であることから納得できる。また雌は雄のような巴紋ではなく、全体が褐色でしっとりとした感じで、嘴のつけねに白斑があることで分かる。

トモエガモが万博公園で見られるのは、それほど遠くないところに越冬地として常住している所があると思われるが、今回の写真にオシドリ雌も1羽(後列最左端に)写っていることから、越冬地は万博公園の北側にある茨木カンツリー倶楽部と思われる。茨木カンツリーには毎年オシドリが越冬に来ており、その群の中にトモエガモもいるので、オシドリと一緒に万博公園に多い餌のドングリを食べに来たことがあって、今回トモエガモが群できたのでないかと思われる。

このように大阪近郊に数少ないトモエガモ、日本ト

タルでも1000~5000羽程度とのことである。その一方で、韓国群山市錦江湾には世界の90%、30万羽とも言われるトモエガモのねぐらがあるとのこと、インターネットで「韓国錦江湾のトモエガモ」で検索していただくと、想像を超える光景が繰り広げられている。

早春の日差しから林全体が明るくなって、林床にいた冬鳥シロハラやツグミの動きが活発になり、樹冠でのシジュウカラの歌に続いて、ウグイスもブッシュの間から「ホーホケキョ」と下手なお経読みが聞かれるようになりました。

大阪府の非常事態宣言は2月28日で解除されたが、日本野鳥の会大阪支部万博公園定例探鳥会、及び吹田野鳥の会探鳥会は、3月度中止を継続することになっている。

4月に入って、コロナが落ち着いたことを確認した上で、参加される皆さんが安心して野鳥を楽しむことができる探鳥会として再開したいと思っている。

それまでは、身近なご自分のフィールドで、春の装いで歓迎してくれる鳥たちを、
「一人バードウォッチング」
で楽しんでくださるように。

**** 写真 ****

種名:トモエガモ

撮影日:2021年2月19日

場所:万博公園

撮影:有賀憲介

(参考文献)

①ガンカモ調査結果2020年度(大阪府)

②大阪府鳥類目録2016(日本野鳥の会大阪支部)

③第47回(平成27年度)ガンカモ類の生息調査報告書(環境省)

